

8月初旬の2週間、協定校である米国ボストンのMCPHS大学に、勝見准教授、河下助教の引率のもと、2年次生の12名が留学しましたので、その様子を報告いたします。

まつおか ももこ
■松岡 萌々子

私は今回の2週間の留学において様々なことを学び、そして経験することができました。

最初に感じたことは自分の英語の能力の低さです。最初の頃は現地の人たちの話すスピードがとても速く感じられ、ほとんど聞き取ることができませんでした。また、英語で自分の思っていることを伝えるのはとても難しく、自分の語彙力のなさなどを痛感しました。しかし、日が経つにつれて徐々にではありますが、聞き取ることができるようになり、交流会や実習練習においては自分から発言や質問をすることができるようになりました。

また、薬学の専門的な授業を受講し、薬局等の見学も行いました。授業では、既に大学の講義で習った内容などもありMCPHS大学の先生方もわかりやすく説明して下さいたため、自分が最初不安に思っ



ボストン観光地を巡るダックツアー
(水陸両用車) にて
(筆者：右側前列より3番目)

いたほど理解できないということはありませんでした。しかし、専門用語が分からないことがあり、これからの自分にとっては専門用語の知識をつけることが重要であると実感しました。薬局等の見学では、薬剤師の業務をサポートするテクニシャンがおられること、制限はあるが医師の再診なく、処方箋1枚で繰り返し薬局で薬を受け取ることができる制度があること、ワクチンの接種が可能であることなど、日本と異なる点がいくつもあることを知りとても驚きました。アメリカと日本のそれぞれの薬剤師の利点及び欠点を知り、薬剤師について深く考えるよい機会となりました。

平日の授業後や休日には自分たちで計画を立て観光をしました。ハーバード大学やボストン美術館など様々なところに行き、ボストンの歴史ある街並みを直接肌で感じる事ができ、とても充実した内容となりました。



ボストンレッドソックススタジアムツアーにて

今回の留学を通して得た知識や経験は自分にとってとても大きな糧になると思います。今回学んだことや得た経験をこれからは活かすことができるよう、より一層薬学や英語の勉強に励みたいと思います。

最後になりましたが、今回の留学に関わり支えて下さった全ての方々から感謝しております。ありがとうございました。

なかにし なつき
■中西 菜月

私は今回の留学で、個人の留学では学べない多くのことを学ぶことができました。アメリカの薬剤師の業務や薬局、病院について、実際に目で見て説明を受けることで、より理解を深めることができました。アメリカの薬局や病院等には調剤や在庫管理などを行うテクニシャンがおられ、薬剤師の業務をサポートしていることや、2回目以降の処方では医師が決めたある一定の期間内であれば医師の診察を受けずに薬局に行くだけで薬を受け取ることができるリフィル処方があること、更には、薬局でインフルエ

ンザのワクチン接種を受けられることや薬にクーポンが存在することなど日本と異なる様々な仕組みがあることを学びました。

授業では、分析化学や生理学、有機化学などで習ったことがヒトの体のなかでどのように関連するのか、それぞれの相互関係をわかりやすく説明していただいたおかげで、全体としての流れが掴みやすく集中して聴講することができました。

ウスターキャンパス訪問や薬剤師体験では、MCPHS大学の学生の方と1：1で説明を受けることができたため、その場ですぐ質問し一つ一つ納得しながら取り組むことができました。

また、これに加えてレセプションなどでMCPHS大学のスタッフの先生や学生の皆さんと積極的に話せる機会がありその機会を生かすことで自分の英語力を磨くことができました。自由時間では、自分たちで行き先などを計画したため、自分たちが興味のあるところに行くことができ、有意義に過ごすことができました。



MCPHS大学 ポストンキャンパス

これらの経験や学んだことが新たな視点となり、これからの学びや将来薬剤師として働く際の糧となると思います。また、将来的に、リフィル処方日本に導入される可能性もあるため、もし導入された場合にしっかりと対応できる薬剤師を目指したいと思います。



ポストンの街並みの様子

まるも ひろこ
■丸茂 寛子

私は出発前、MCPHS大学サマープログラムについて、不安な気持ちを抱えていましたが、ポストンでの2週間は私にとって毎日が新鮮で、周囲からの刺激も強く受けた、とても充実した日々でした。

平日は毎日夕方まで授業があり、全て英語で薬学の授業を受けました。最初は英語が聞き取れず、授業中に積極的に発言できずにとっても悔しい思いをしました。しかし、少しずつ理解できるようになり、失敗を恐れず発言することができるようになりました。毎日ほんの少しずつ進歩がみられ、それによってより授業を楽しめるようになりました。また、病院見学や薬局見学、服薬指導のシミュレーションを通してアメリカと日本の薬剤師の違いを感じることができました。中でも印象的であったことは2つあります。まず1つ目は、アメリカでは薬剤師とは別にテクニシャンがいて、テクニシャンが処方箋のデータ管理や調剤面で薬剤師の仕事を補助しているということです。私は、テクニシャンの存在によって薬剤師がより臨床現場で活躍でき、それがアメリカの薬剤師の高い地位につながっているのではないかと感じました。2つ目は、処方箋の期限が1年でリフィル形式をとっているため、同じ薬であれば医師の診察がなくても薬局で薬を受け取ることができるということです。私はアメリカの薬剤師について以前から興味があったため、実際に自分の目で見て確かめら

れたことは大きな収穫となりました。

私は今回の留学に、英語で薬学を学び、アメリカの薬剤師の現場を知りたい、また自分を成長させたいという思いで参加しました。2週間という短い期間ではありましたが、毎日多くのことを学び、考えた時間は私にとってとても有意義なものとなりました。また、質問をされたときにすぐに自分の言いたいことをうまく伝えられないなど、留学を通して今後の課題も多く見つかりました。これからはこれらの経験やそのときに感じた気持ちを忘れずに、日々の勉強に励み、将来の自分に大いに生かしていきたいと思います。



ポストンのビーコンヒルにて